



スケッチ・写真
 I: 磯崎 正幸
 A: 青山 恭之
 S: 齊藤 祐子

私たちが暮らすまち「浦和宿」は、中山道の宿場町として、江戸時代に栄えました。その後、関東大震災で被災した都心から住民が移り住み、鉄道の整備とともに、郊外住宅地として発展していきます。明治から大正、昭和と中山道沿いの商家や蔵、そして住宅が落ち着いたまちなみをつくりだしました。

戦災の被害も少なく、戦前の建物やまちなみが残る暮らしを大切にしてきました。けれど、近年の中高層化が進む都市の変化は、まちの姿を激しく変えていき、時代を伝える建物は次々と姿を消しています。

日々の暮らしのなかで、歴史を感じる建物を発見し、次の世代へと引き継いでいきたいと考えて、展覧会を開催することになりました。

「浦和宿」とその周辺を実際に歩き、歴史と時代の記憶を重ねてきた、店舗や住まいを中心に、寺社仏閣などの建物30ヶ所を「浦和宿 たても の 30」のリストにして、写真とスケッチで紹介します。

この展示をきっかけに、次世代へと遺したい建物を、たくさんの方にご提案いただき、50ヶ所、100ヶ所とふやしていき、歴史や文化を感じるまち「浦和宿」を再発見したいと思えます。そして、まちや住まい、建物を楽しむ、まち歩きなどの活動をネットワークにして、つながり、広める機会にしたいと考えています。

「浦和宿たても30」展

歴史と記憶を明日に伝える建物紹介

主催；まちづくり工房 代表 阿武信夫
 岸本眞木子、齊藤祐子、根岸 春
 共催；浦和宿けやきの会
 協力；うらわ建築塾、

(社) 埼玉いえ・まち再生会議、
 都市づくりNPOさいたま

2017年9月26日～10月1日 コバルト画房

10月13～15日 岸町公民館

「岸町地区文化祭」

10月19～24日 楽風

「PALS楽風展」